

# 東北食農連携ネット

“FACNeT”

## 東北ハイテク研究会



No. 6 (2017. 7)

東北食農連携ネット“FACNeT”第6号をお届けします。

第6号では、6月15日に開催されました東北地域農林水産・食品ハイテク研究会・企画委員会で論議されました東北ハイテク研の今後の活動方向の内容についてお知らせします。

### 平成29年度事業計画の特徴

#### 「『知』の集積と活用の中」事業への対応

農林水産省が平成28年度に提起した新たな産学連携の仕組みである「『知』の集積と活用の中」に関わる事業に如何に的確に対応していくかは、東北ハイテク研究会の今後の事業展開にとって大きな意味をもっています。この事業制度に参加して活動を展開するためには、研究機関、民間企業、生産者は、次のような対応をすることが求められます。

##### ＜産学連携協議会への参加＞

平成29年6月現在、法人・団体会員数1,188、生産者・大学・研究機関の研究者475人が個人会員として参加しています。産学連携協議会への参加は、産学連携協議会のHPで受付けています。

##### ＜研究開発プラットフォームへの参加＞

産学連携協議会に参加した法人・団体、個人会員は、次の7つの研究領域で自主的に組織化される研究開発プラットフォームに参加できます。①日本食・食産業のグローバル展開(9)、②健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出(17)、③農林水産業の情報産業化と生産システムの革新(12)、④新たな生物系素材産業の創出(4)、⑤次世代水産増養殖業の創出(3)、⑥世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現(2)、⑦新たな研究領域(7)。現在、7つの研究領域で54のプラットフォームが形成されています。( )内は、プラットフォームの数です。

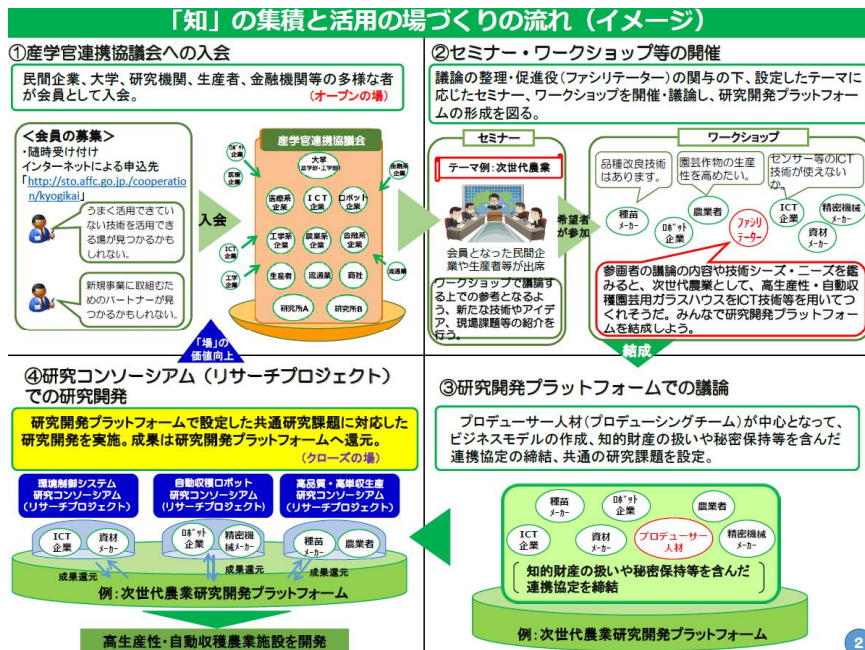
##### ＜研究開発コンソーシアムへの参加＞

研究開発プラットフォームでは、セミナーや勉強会を通じて日常的に研究課題を発掘するための活動を行い、整理された課題の中で研究参加団体を絞り込み、マッチングファンド方式(1/3の研究予算は参加者自ら負担する方式)での研究支援を基本とする「『知』の集積と活用の中による研究開発モデル事業」、さらにはその他の競争的資金事業に応募して研究を実施します。

「『知』の集積と活用の中」事業は、設立されてから日も浅くまだまだ広く知られていません。特に東北地域では認知度が低く、東北の研究機関を中心に組織化された研究開発プラットフォームは東北大

学を中心に組織化された「科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォーム」と、岩手大学を中心に組織化された「次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー創造プラットフォーム」の2つしかありません。また、産学連携協議会への参加団体数も、青森県(9)、岩手県(31)、宮城県(30)、秋田県(6)、山形県(12)、福島県(2)と、他の地域よりも少ないのが実態です。これまで研究開発モデル事業には、東北大学のプラットフォームから提出された2件の研究課題が採択されています。

以上整理しましたように、従来とは異なる競争的資金事業である「『知』の集積と活用の場」事業に対応出来るような東北地域における産学連携のネットワーク作り、研究開発コンソーシアムづくりをサポートしていくことを東北ハイテク研究会の活動の一つの柱とすることが了承されました。



## 会員へのサービスの充実

東北ハイテク研究会は、会員による農食事業を中心とした外部資金への応募・採択支援、各種セミナー・シンポジウム・勉強会を開催して大学・研究機関による開発技術・実用化技術の社会への発信、産学連携による実用化研究の組織化・補助事業への応募などの活動を支援してきました。しかしながら、人的問題・予算面の制約もあり、活動の範囲は極めて限られたものとならざるを得ませんでした。そのため、会員各位からは会員になったメリットをもっと出すような活動をしたいという要望がだされました。

そのため、29年度はこうした意見を取り入れて会員サービスの充実を図るとともに、会員確保の取り組みを強化することを重点課題として、次のような取り組みを実施する事にしました。

- 1) 東北ハイテク研究会ホームページの内容充実と、タイムリーな更新
- 2) 東北ハイテク研究会ニュースレター「東北食農連携ネット (FACNeT)」の発行とタイムリーな更新。活動内容・多様な研究成果の広報。
- 3) 講演会、シンポジウムとともに、継続的なセミナー、勉強会活動を開催し新たな産学連携の動きを生み出す。
- 4) 研究成果の発信・実用化支援活動の強化。
- 5) 産学連携による担い手・地域・農業関連企業の新たなチャレンジの支援